

2年次前期・必修

1単位・30時間

【概要・目標】

近代医学・医療の急激な進歩に伴って表面化してきた人間の生と死をめぐる諸問題を俎上に載せ、基本的人権としての生存権、生活権、健康権とともに、医療の場における患者の自決権が如何に保障されるべきかについて考究し、医療の担い手の基本的な資質として求められる患者の人権を尊び守る態度の涵養を図る。

【授業内容・スケジュール】

- i. 前半は、いわば「基礎編」、あるいは「理論編」である。7回の授業で以下の事柄を講述する予定である。
 1. 倫理（学）的思考もしくは判断の基礎
 - 1-1. 倫理的葛藤と倫理（学）の必要性
 - 1-2. 応用倫理学としての生命倫理：規範倫理学と応用倫理学
 - 1-3. 善さ・正しさとは：規範倫理学の諸理論の概説
 2. 医療倫理と生命倫理学
 - 2-1. 医療の倫理の伝統
 - 2-2. 生命倫理学の誕生
 3. 看護に携わる者の倫理
 - 3-1. 看護職の歴史と位置
 - 3-2. 看護職特有の倫理
 - ii. 後半は、医療の場で遭遇する倫理問題について論究する。
 - 1 生命倫理の展開—医療の担い手の職業倫理と患者の権利
 - 2 世界保健憲章や経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約等にみられる「健康権」の概念と全ての人に認められる権利としての「自決権」の尊重
 - 3 アメリカおよびナチス・ドイツにみられた「優生思想」と生命倫理
 - 4 尊厳死と安楽死をめぐって
 - 5 ヒトの誕生と生殖医療
 - 6 障害者をめぐる課題
 - 7 日常診療における医療者と患者のコミュニケーション
 - 8 経済発展と生命尊重—事例からみた企業の社会的責任
-

【評価】

試験（90%）、授業への参加（ミニレポートを含む）（10%）

【教科書】

必要に応じ資料プリント配布

【推薦参考図書】

適宜紹介する。

【その他】

メールアドレス mappy0905@hotmail.co.jp